

# 【資料 3】

## ◆救急隊が見たアナフィラキシーについて◆

### アナフィラキシーの諸症状と対策



大野市消防署  
救急救命士 阪上 明宏

# アナフィラキシー の診断基準



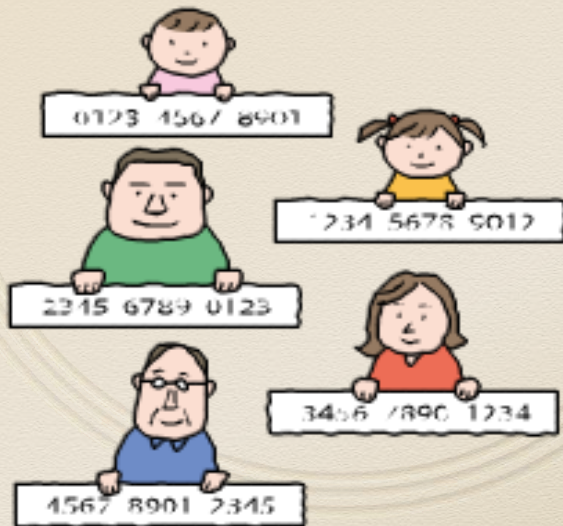
## ① 身体症状

- ・ 皮膚症状  
全身発疹、紅潮、眼瞼浮腫
- ・ 呼吸器症状  
呼吸困難感、嘔声等
- ・ 循環器症状  
血圧低下、意識障害
- ・ 消化器症状  
嘔吐、腹部疝痛

## ② アレルゲンとなり得るものへの暴露

## ③ 急激な血圧低下

# こんな場合は 直ぐに119番



例えば・・・

〇〇を食べたら、蕁麻疹などの皮膚症状に加えて、呼吸困難感、めまい、倦怠感（だるさ）、腹痛、嘔吐を発症した。

そういえば、以前〇〇を食べて重篤なアナフィラキシーを起こしたことがある。

☆アナフィラキシーを疑った時は直ぐに医療機関を受診する。

軽微な症状でもアナフィラキシーの前兆の可能性がある。

☆学校・施設の職員で医療機関へ連れて行くのも良策です。

# その時の対応は？

## I

①悪化させないためにアレルギーと考  
えられる原因の除去。

②食物アレルギーのある食品を食べた  
場合は、口から出し、しっかり口をす  
すぐ。

③皮膚に付いた場合は、流水でよく洗  
い流す。（目に入った場合も同様）

④ハチに刺された場合は、速やかにそ  
の場から離れ、針が皮膚に刺さってい  
る場合は速やかに除去する。



# その時の対応は？ II



## ①めまいや気が遠くなる感じ

→ 血圧低下を示す症状

- ・ 横（仰向け）になり、丸めた毛布などの上に両足を乗せる。（下肢挙上）

## ②嘔吐や意識状態が悪くなった時

→ 窒息の可能性あり

- ・ 嘔吐物を喉に詰まらせたり、舌が気道を狭くし、呼吸困難感を起こす可能性があるため、横向きにする。



**職員の応援を呼ぶ。一人で対応しない。  
対応不能と判断したならば直ぐに119  
番通報し、救急車を要請する。**

# 119番通報 シュミレーション



## 【通報時はどんな感じ？】

**大野消防です。火事ですか救急車ですか。**

➢救急車をお願いします。

**場所はどこですか。**

➢〇〇小学校です。

**どうなさいましたか。**

➢小学校2年生の男の子が給食後、嘔吐し、保健室で休んでいたのですが、体にじんま疹のような物が出てきました。

**現在は会話はできますか。**

➢できます。

**アレルギーの病気を元々、持っている子供ですか。**

➢そうです。

**エピペンも所持しているのですか。**

➢はい。

**では、準備して下さい。**

# 119番通報 シミュレーション

いまから救急車が向かいます。他の先生に玄関で案内を依頼して下さい。

➤ エピペンが準備できました。

では、足の大腿部(太もも)の外側から打つことができますか。

➤ できません。

では、こちらから指導します。

①ケースのカバーキャップを開けエピペン本体を取り出す

②オレンジ色のニードルカバーを下に向け利き手でにぎり持つ

③青い安全キャップを外す

④青いキャップを外したら、太ももの外側にエピペン本体を軽くあて”カチッ”と音がするまで強く押しあて、そのまま約5秒間維持する。(5つ数えてください。)

※服の上からでも良い。

<注意> 投与部分のポケット内を確認する。投与前に必ず声をかける。注射した後すぐに抜かない。

⑤最後に注射した部分を10秒間マッサージする



# 119番通報 シミュレーション



エピペン<sup>®</sup>は筋肉内注射であり、注射してから約10分程度で体内濃度が最高になります。その後徐々に減少して40分くらいでその濃度が半分になります。

効果が出てきて症状が改善してもその後は効果が切れるので必ず医療機関を受診することをお勧めします。また、意識状態が悪くなったなら、すぐにもう一度119番通報して下さい。

緊急時の連絡先、掛かり付け病院も聴取します。



正しい  
持ち方



誤った  
持ち方



この部分

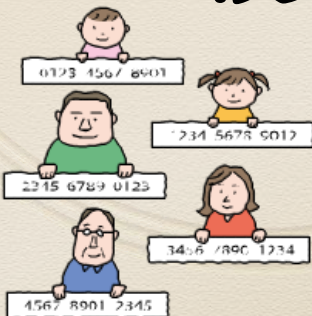
誤注射を避ける  
ために

オレンジ色のニードル(針)カバーの先端に  
指などを押し当てない。

**針が出てくる。危険！**

危険ですので絶対に分解しない。

# 救急車が到着 した後



## 【救急隊が行う行動】

患者の初期評価(意識状態・喉の腫れ・吐物でのつまり・呼吸困難・バイタルチェック:ショック兆候)を確認 ⇒ 救急車内に收容する

※酸素投与、下肢挙上

患者にエピペンが処方されていたら ⇒ 患者自らエピペンを使用

※救急救命士が患者の代わりに投与

救急救命士がアナフィラキシーかどうか判断に迷う場合は医師に指示を仰ぐ

※エピペンを処方されているときは、必ず救急隊に伝えてほしい

<医療機関>アナフィラキシーに対する処置は、アドレナリン投与  
ステロイド(人の副腎で作られるホルモン)アドレナリンと違い即効性に欠ける  
抗ヒスタミン(アレルギーの原因物質であるヒスタミンを抑制する薬)の投与

アナフィラキシー 血管から水分が外に逃げるため脱水になりやすい  
血管が広がるため、血圧の低下を招きやすい  
※点滴処置を行う

# エピペン (補足)



## 注射針一体型自己注射用製剤

- 0.15mg製剤⇒体重15kg以上
- 0.3mg製剤⇒体重30kg以上
- 体重15kg未満適用外
  
- 太もも外側は、筋肉が多く、太い血管や神経から離れているので、誤注射の可能性が低くなる

参考資料:「学校のアレルギー疾患に対する  
取り組みガイドライン」文部科学省  
「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」  
文部科学省

ご清聴ありがとうございました